

会議記録(概要)

会議名	平成28年度 第3回三田市生涯学習審議会
日時	平成29年3月13日(月) 18時00分から19時30分
場所	三田市役所3号庁舎3201会議室
出席者	田中会長、馬込副会長、尾上委員、川島委員、河上委員、竹之内委員、門垣委員
事務局等	(市民文化室) 仲井室長 (文化スポーツ課) 印藤課長、中井係長、森鼻主査 (生涯学習サポート) 田所係長
添付資料	レジュメ、資料1～資料3

会議概要

1. 開会

あいさつ

2. 報告事項

① 視察報告

実施日時：平成29年2月27日(月) 13時15分～

視察場所：兵庫県いなみ野学園(兵庫県加古川市平岡町新在家902-3)

参加者：田中会長、河上委員

印藤課長、中井係長、田所係長、藤本、鈴木

【事務局から視察概要説明】

1. いなみ野学園の学習目的

- ・地域に志する人材の育成を目的とし、明確に入学生募集案内に記載している。
- ・大学4年、大学院2年、計6年の期間の中で高齢者が自ら仲間づくりの輪を広げ、また学習を通じて知識・技能・教養を高めることで自己の新しい生き方を想像し地域社会の発展に寄与できるよう総合的体系的な学習の場を広げる。
- ・大学院では、実践的で、より専門性の高い学習を通じて人生を豊かにし、より高いレベルで地域社会の解決、中心的、リーダーとしての活躍を期待できる人材の発掘している。

2. 学費の値上げ

- ・いなみ野学園では、平成21年度に学費を値上げしたことにより受講者が減少傾向となったが、集まる個々の質が向上した。
- ・年間5万円にすることにより、目的意識を持って活躍したい方が集まるようになった。
- ・カリキュラムの内容も濃く、午前、午後と、週1回は一日一緒にいることで、仲間意識が高まり学生同士の連帯感が生まれる結果となった。

3. 地元市長との関係については

- ・いなみ野学園では、教養・趣味などを高めていくなど市町との連携は考えていない。
- ・三田市としては、検討の余地があるのではないか

4. 活動の場・充実した施設・整備された環境

- ・園芸・陶芸ができる大きな施設がある。
- ・教室自体が学園で占有できるので三田市とは異なる。
- ・帰属意識が高く一日を通して一緒にいるので連帯感が生まれる。
- ・大学院、リーダーの人材育成6年という期間を終了後、研究生制度を設けており他の生涯学習施設の講師なども行い地域に貢献している。
- ・指導者養成講座などに「地域貢献」を前面に出しすぎると後が続かないことがあったので、名称を変えることで人材の質も向上した。

(委員)

- ・いなみ野学園も苦勞しており、大学院施設でのボランティアは非常に難しいので、大学院を卒業された方が地域の高齢者大学等で講師をしていただき人材を育てていく。
- ・そういう両者のニーズと一致している授業料アップの件、年金の格差等の理由で学習意欲があったとしても来られない人もいるという現状がある。

3. 協議事項

答申骨子の取りまとめに向けた意見書の提出について

① 課題事項の確認

(1) カリキュラムの改革

- 合理的で体系的かつ専門的なカリキュラム編成
- 若い世代との交流の推進

(2) 運営の改革

- ネットワークの活用による運営合理化
- 「活躍」の場へつなげる、卒業後の出口戦略の構築
- 学生による自治と共助の推進（意識改革）
- 適正な受益者負担のあり方

(3) OB会「生涯学習サポートクラブ」の改革

- 学びの循環構造の担い手としての役割明確化

【事務局】

○概要説明

いなみ野学園では地域人材の育成・受講料のあり方等の課題を踏まえ、H21年前後の改革があった。色んな意味で敷居が高くなることで、受講者の階層が一段高い集団になっていった。一方で生きがい作り仲間作りの部分をそぎ落としたことによって、人が去っていった。結果的に県は人材育成を、近隣市町は生きがい作り、仲間づくりの役割分担ができています。これを三田市に持ち込んだ時に役割分担はどうなるのかと感じた。県は、著名な方が講師として多く、県と市が連携すればまた違う形でカリキュラム等のすみ分けを行い、三田市でも合理的な運営ができるのではないかと思います。シニア世代を中心とした生涯学習の場というのは、あまりにもタイトな対応をすると、こぼれおちてしまう人もあるんだということを、どう考えていくのかが大きなテーマになっていくという印象を受けた。

【質問・意見】

事務局：大学院の役割というのは、三田市と生涯学習カレッジとではかなり違うなと印象を受けました。

事務局：先程、申し上げたようにOBの方が講師補佐という形で参加されていたり、研究生と言う形で残っております。三田市の場合、SSCという団体組織があるのでそのあたりが参考になるかと思いました。

会長：個人的には過去に個人で講座を持ってさせていただきました。三田市生涯学習カレッジはいなみ野学園に関しては規模が全く違うので、このままを取り入れることはできない。一つの理想郷であろうけれども三田市ならではの学習生涯カレッジがあるのではないかと。否定するのではなく施設の縮小版ではなく、カリキュラムで利用できる場所を取り入れて今後やっていく。学生のレベルを上げる講師陣などもカリキュラムを想定する時にリストアップできる

スーパースター的な講師陣の人材とスタッフの充実は羨ましい限りですが、三田市も地域の方々の様々な人材、あふれた人材もあるので、精力的に発掘をして、どう生かして増やしていくかということと、地元以外からも広範囲でスタートを考えていかなければならない。質のいいカリキュラムを作り、どう構築していくのかこれからの課題として、三田市では、学生の対象が55歳からで、対していなみ野は60歳からと、三田市の場合多少年齢の幅を広げているという戦略。いなみ野学園の取り入れる所は取り入れるというコンセプトでいけばいいと思います。そもそも基本的にどのような軸でやるのかを考えないといけない。他市と同じような改革ではなく、先程、田所さんのお話にあったOBの方の活用方法、長期的に学んだ人達の人材をどううまく生かしていくかを考えていけばいいのではないかと思います。

ではこれまでの報告を受けてまして、質問等ありましたらお願いします。

委員：いなみ野学園がよく取り沙汰されてはいますが、阪神シニアカレッジがありますよね、三田のカレッジと阪神カレッジのすみ分けとかそのあたりについては、どのようにお考えなのかなど。

会長：それは、ちょっと議論してからの方がいいかもしれませんね。

事務局：阪神シニアカレッジに関しては、阪神間の自治体がやっております高齢者大学と被っている部分があると思います。県がやっているのも非常に腰引くといえますか、学費の面に関し、コスパから言うと自治体が行っている方が良いとは思いますが。こだわりがなければ阪神間の方は自治体の高齢者大学を選ばれると思います。

いなみ野の方は、学園という施設がついてますし場があるので、自治体とキャラが被っていたとしても断然一つ上に行っているのだから選ばれる余地があります。阪神と比べるとレベルというか規模が違います。

会長：施設の規模が違うのととなりの芝生は青いという感じですね。先程の阪神の件ですが遠方

の方が三田に来ようと思う位になればと思います。
他に質問は？

委員：私は、いなみ野に行ったことはありませんが総戦力がいなみ野と違うし、年齢的にも50代60代と苦戦し、三田しかないものと言うとどういうものなのでしょう？商品があると大きいのだろうと思います。

会長：商品開発ということですね。そう言えば、西播磨の地元で「播磨学」の講座をやると、皆さんわざわざやってくる。阪神とか神戸でやってもあまり来られない。播磨ではコーディネートする新聞社だとかそういった方が来られる。商品開発としてはご当地的なシステムを作っていくなど、三田もその辺りが必要。

事務局：県がカリキュラムを組む上で県の課題を踏まえて人材育成やカリキュラムを組んでいるのかと聞いた所、回答は流されてしまいましたが。大きく分けての人材育成はやっておられると思いますが、県政課題に資する形にはなっていないという印象を受けた。三田市でやる場合、三田市の課題をはっきりさせた上でカリキュラムを編成し三田ならではのカレッジを作ればと思う。(河上委員レポートの)1Pの下から2番目の段落の最後の所で…(以下省略)これは、戦術としては大事で、最初から学費を含め敷居を高くすると、逆に学ぶ機会が失われてく人が多くなる。入口は広く取っておきながら知らず知らずのうちに地域と学び、それだったら出来る気がすると思わせるような仕掛けというものが大事なんだろうなと思いました。

会長：別に県政がどうのとかではなく、生涯学習のもともとの形は自己実現、自分のレベルからスタートしたもの。いなみ野もそこに繋がりながら、個人の自己実現レベルだけではではないよという論理が出てきて、少しずつ自分の力を還元していく、そういったものが「生涯現役」「社会貢献していく」をキーワードにいなみ野のプログラムが変わっていった。ただしそれを兵庫県政にどう影響させていくかということではなく、一般論として社会に還元していくという話です。今のいなみ野のプログラムは直接県政に関わっていないと感じています。三田市では三田市政への還元という点では考えを持っておられますか？

事務局：市といますか、地域です。そこにお住まいになっている方への還元として。

委員：具体的に地域に貢献する人材というのは、市の側からみた場合、どんな人材を希望するか具体的なものはあるのか？私達がカリキュラムを作成する目標を立てるためには、ボヤっとして分からない所がある。

会長：実際は、そういう部分(希望)もあるよという位で、すべてがそうだとちょっと息苦しくなる。

委員：全てではないにしてもカレッジのことを考えるにしても、そういう部分(市の希望)と、もう少し生きがいの部分との組み合わせになると思う。自己実現だとか、先程言った社会的欲求(認められたい)社会で活躍していた方が、会社を離れてしまった場合に、そう

いう欲求みたいなものを地域に対しリンクさせられたら、1番望ましい。いなみ野学園の場合、学生さんに勉強を教えたいという自己実現がニーズとか結びついた結果だと思うが、その辺を上手くやれるのが望ましいのだが、そういう人は多いと思う。ただ市がやってくれることをボランティアでやってくれないかという反発があるかも知れない。本来やりたいという気持ちをうまく引き出して、何がやりたいのかわかっていない人も多くいるでしょうから、その人と市の考えを結びつける方法があるのではないかと、具体的にお聞きしたんですけれど。

事務局：私的には、世代間分業の時代になると思います。シニア世代にはシニア世代の社会的役割が出てきているが、役割には、いろいろあって一概には言えない。ここで地域とのテーマになれば、何をしてほしいのかではなく、自分だったら何ができるのかということに気付いていただけるような、機会になればいいなと思います。例えば料理ができるだけでも十分世代間分業のテーマになっているし、あるいは子どもの相手が得意であるとか、自治会の仕事をやりますよとか、色んな可能性があり、ご自身が持っているのもので社会貢献、地域貢献ができるんだということに気づいていただけるようなものになればいいなというイメージは持っています。

委員：逆に市が把握している地域のニーズからこういう人材がほしいというのではない？

事務局：むしろ、こういうニーズがあるんだということをどんどん提示していけたらいいな思っています。例えば自治会や役員の担い手がいない、とか共働きをしてる人はこういう事で困っています。なぜ子どもが増えていかないかとかシニア世代の生の声を伝えていけたらいいなと。何が一番始末が悪いかというと、会社にずっと引きこもってた会社人間の人達で、それまで全てが許されていた方が、会社を退いて次のステージに行った時に地域の事は何も知らない、家庭のことも全然知らない、そういう所をもう一度学んでいただいて、もう一度地域に再デビューしていただく、そのための学校であればと思います。

会長：今、ボランティアで神戸市の親子クッキングという料理教室を開き、調理師免許はもっておりませんが、親子で作ったりしております。私個人としては、公園の遊びのおじさんになりたいなと考えていて、自転車での紙芝居などとか。

② ①の課題解決に向けた意見書の様式案【資料①】

*意見書提出期限：平成29年4月3日（月）

【事務局】＜説明＞

今後カリキュラムをどうしていくのか
カレッジの仕組みをどうしていくのか
カレッジの改革をどう位置付けていくのか

【質問・意見】

委員：地域貢献を前に出してはいけないと言うが、一つの目的を持って課題に対する共通認識が必要ではないか。

- 会 長：その意見を意見書のフォーマットに入力して送信してください。
- 委 員：カリキュラムの改革というところで、現状のカリキュラムのどういった所が実は課題だと思われているのか。
- 事 務 局：評価は様々だとは思いますが、趣味と教養が主になってしまっているカリキュラムを地域人材育成に改正していくこと。もう一つは専門性を確保していく。
- 委 員：カルチャーセンターは止めようということですね。
- 委 員：同様に運営の改革については？
- 事 務 局：運営のネットワークの構築については、従来は中央公民館だけでやり抜こうという発想だったのですが、しかし社会教育施設もありますし、他の生涯学習施設とも連携をとりながら総合力でカレッジの運営をしていただけたらいいなと考えています。
- 会 長：メイン拠点以外にピンポイントの活動拠点などがあれば教えてもらえれば具体的なイメージができるのかなと思います。施設のない拠点もあるかもしれない、例えばプレイパークなどもハード施設がなくても活動されているので、そのような事例を洗い出してもらえれば。多世代交流館のようなはっきりしたハードがあるところだけでなく、なくても活動されている団体はたくさんあると思うので、それを示してもらいたい。
- 委 員：まちづくり協働センターの市民活動プラザの担当さんによると 250 団体が登録していて、その団体すべてを対象に活動内容などについて聞き取りをされたらしい。その結果は生涯学習の次の活動運営に直結しているところだと思うので、そこにはヒントが隠されているような気がする。
- 会 長：可能であれば、そのようなヒントもご提示ください。
- 事 務 局：本来の生涯学習カレッジの拠点であった中央公民館を今年度廃止いたしました。私どもはこの生涯学習の拠点というものを機能、いわゆる司令塔とハードウェアに分けて考えています。ハードウェアに関しては各地域に市民センターがありますのでこれを活用していく。司令塔は文化スポーツ課の中で担当をつくってここが司令塔になっていくとしています。これからの組織のあり方としては、核が一つあって、つながりで機能している集団という考え方もあると思っているので、カレッジについてもバーチャルな組織ができているというのもネットワークもあるのかなと思います。
- 会 長：昔の大学は研究所とかセンターをつくって、必ず建物とセットだったが、今頃は機能集団で、建物はないけれどセンターがつくられている。そういうネットワークだと理解している。ただ、市民センターが各地域の拠点として考えて複合的な機能として、地域の文化活動を繋いでいくという 2 重のシステムですね。後程事務局から説明がある意見書のレイアウトに課題の追加もあるかもしれませんね。

委員：ネットワークの活用というのをバーチャルなイメージで、サイバー大学や放送大学などもイメージしますが、私は難しいなと考えていて、例えばカリキュラムなのかネットワークの活用なのか、記載欄が違っていてもご容赦願えるのでしょうか。

事務局：見本としての課題なので、真っ白な状態でも良いと考えています。

会長：あまり制限がない意見が多いと事務局の集約が大変だと思います。ゆるやかに考えていただけたらと思います。それでは意見書のフォーマットの説明を。

事務局：＜意見書フォーマットについての説明＞

- ・方向性を示すための課題設定である。
- ・いただいた意見は集約して資料にまとめる。
- ・委員が考える課題設定も記載できる枠を設ける。
- ・枠の大きさは自由に変更してもらって良い。
- ・意見書様式の送付と、回答の送付は電子メールで行う。
- ・様式は、ワードとエクセル両ファイル形式を送付する。
- ・意見書提出期限は4月3日（月）

委員：SSCの活動状況についての資料も送ってください。

事務局：＜概要説明＞

- ・オープンセミナーの自主的実施
- ・カモンキッズ（子ども向け世代間交流の機会）の実施
- ・会員は直近で235名、オープンセミナー参加者は100～150人
- ・資料は意見書とともに送付する。

4. 今後の予定

4月開催：4月10日（月）18時から

5月開催：5月8日（月）18時から

6月開催：6月12日（月）18時から

会場は3201会議室

5. その他

生涯学習審議会条例【資料②】、三田市情報公開条例【資料③】の配付

6. 閉会

あいさつ

以上